

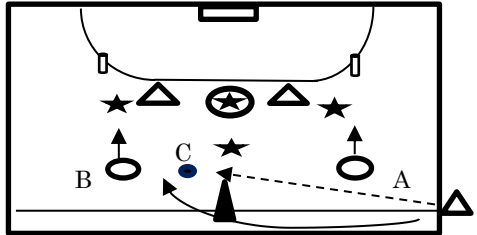
1. 授業の実際

(1) 単元名 球技 ゴール型 「ハンドボール」

- (2) 本時の目標
- ・空間の有効活用について仲間へのアドバイスを自主的に行い、作戦などの話し合いに積極的に参加することができるようにする。(関心・意欲・態度)
 - ・空間に仲間と連携して走り込み、マークをかわしてゴール前で攻防が展開できるようにする。(技能)

(3) 本時の展開 (9 / 13)

過程	学習内容・学習活動	教師の指導・支援 (◇評価)
はじめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> ○準備・挨拶・出席・健康状態の確認 ○準備運動、補強運動、ドリル (チームごと) ○キャッチボール ○パスゲーム (1分×2) <ul style="list-style-type: none"> ・攻守交替制とし、制限時間内に3回のカットもしくはコートの外にボールが出たら守備の勝ち。それ以外は攻撃側の勝利。 ○本時の学習・ねらいの確認 	<ul style="list-style-type: none"> ○ボールやビブスの用意などの準備を行う。 ○開始時刻と同時に挨拶ができるよう指示を出す。 ○健康状態を把握する。見学者には指示を出す。 ○よく声が出ている、模範となる動きができていたら称賛する。 ○キャッチボールのスタートはゴールポストより後ろへは下がらせないよう助言する。 ○できる限りたくさんボールに触れるよう声をかける。
	<p>ポストを活用し、空間を意識した動きで、積極的に攻撃に参加しよう。</p>	
なか 33分	<ul style="list-style-type: none"> ○チームミーティング <ul style="list-style-type: none"> ・これまで書き溜めた付箋とホワイトボードを活用し攻撃時の動き方、パスの回し方を確認する。 ○チーム練習 ○タスクゲームハーフコート (3分半×2) (ルール) <ul style="list-style-type: none"> ・コートの外に守備者がパスを投げた瞬間(攻撃Bに)からプレイ開始 ・パスを投げた守備者は中央コーンを回ってからプレイに参加 ・ドリブルはせずパスでボールをつなぐ ・相手を掴む、引っ張る、押すことは禁止 ・パスカットやシュートブロックは可 ・攻撃終了後、A→B→Cに移動する ※守備も1カ所ずつ移動する <ul style="list-style-type: none"> ・ポスト (C) の得点は1点 バックプレイヤー (A・B) の得点は2点。 ○チームミーティング (試合の振り返り) 	<ul style="list-style-type: none"> ○チームの課題が何かを明確化させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・これまでのゲームから得点パターンを考えさせる。 ・ボール保持者と守備者が一直線になっている状況では、パスをもらうことができないことを理解させ、どのような動きをすればよいかを伝える。 ・ポストに対するDFの守り方によってOFの選択はどうすればよいかを問う。 ☆空間の有効活用について仲間へのアドバイスを自主的に行い、作戦などの話し合いに積極的に参加しているか。(関心・意欲・態度) ☆空間に仲間と連携して走り込み、マークをかわしてゴール前で攻防が展開できていたか。(技能) ○=オフェンス △=ディフェンス
おわり 7分	<ul style="list-style-type: none"> ○学習のまとめ ○整理運動 ○次回の連絡、挨拶 ○用具の片づけ 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習カード記入させる。 ○本時の成果を称賛し、次時への意識づけを図る。 ○本時の反省を次時に活かし、個人の課題の整理や解決の方法を確認するよう促す。



2. 成果と課題

- (1) 付箋に空間の活用についての考えを書き込み、ホワイトボードに貼って共有したことでチーム内の考えが深まり、プレイの選択肢が増えた。
- (2) ポストの動きに制限を加えたが、それでも動きが

多すぎ、混乱が生じてしまった。